

中間貯蔵 操業2年延期

RFS検討「23年度」に

リサイクル燃料貯蔵（RFS、本社むつ市）が「2021年度」としての使用済み核燃料中間貯蔵施設の事業開始見込みを「23年度」に2年先送りする方向で検討していることが20日、関係者への取材で分かった。RFSは「21年度」を暫定的な目標として掲げているが、原子力規制委員会で行われている「設計・工事方法の変更の認可（設計認可）」の審査が進展せず、21年度内の操業は極めて厳しい状況だった。21日にもむつ市などに報告する。



事業開始時期の延期を検討しているリサイクル燃料貯蔵（RFS）の使用済み核燃料中間貯蔵施設一むつ市

期として確定する。この方針を示した経緯がある。中間貯蔵施設は、RFSの親会社である東京電力と日本原子力発電が出資して建設した。2社の使用済み核燃料を最長50年間一時保管する。

期として確定する。この方針を示した経緯がある。中間貯蔵施設は、RFSの親会社である東京電力と日本原子力発電が出資して建設した。2社の使用済み核燃料を最長50年間一時保管する。

固定資産税・新税でむつ市が税収試算むつ市議会は15日、使用済み核燃料中間貯蔵事業全般を協議する新たな特別委員会「使用済み核燃料中間貯蔵施設に関する調査検討特別委」を初めて開いた。市は当初計画の2010年度に稼働を始めたとの仮定で、20年度まで10年間の固定資産税と使用済み核燃料（新税）を試算したところ、税収は計約207億円と明らかになった。



「もし仮に207億円の税収があれば、病院も建て替え、未舗装の道路は全部舗装できていく。18歳以下の医療費、学校給食も無料化できていた。10年たつて何もできていないということ是非常に残念」と述べた。特別委は「コミュニティFM」「FMアジュール」でライブ中継しており、宮下市長は「この放送をRFS社と新社長も聞いていると思う。市の発展のために、この事業をどう進めていくのか、あらためて真剣に考える機会」と念押しした。（鳥谷部知子）

2021/7/16 東奥日報

「操業延期は暫定的」

むつ中間貯蔵 RFS、市と県に報告

リサイクル燃料貯蔵（RFS、本社むつ市）は21日、使用済み核燃料中間貯蔵施設の新規制基準適合性審査に合格した。しかし、事業開始には設計認可や追加の工事、使用前検査など二連の手続きが必要で、坂本隆社長は「現時では今年4月、宮下宗一郎市長と面会した際に「今後の手続きを勘案し、具体的な工程の見通しが得られた時点で工事計画の見直しを検討しなければならぬ」と考えている」と説明していた。RFSの広報担当者は20日、本紙取材に「事業開始の見込みは暫定的に21年度と見ているが、現状、時期を極端に遅らせていない。見極められる段階になり、決まったら報告させていただきます」と述べるとも述べた。RFSは18年12月、事業開始時期の7回目の延期を決定し、「21年度と見込まれる」とした。しかし、宮下市長が「見込み」の工程は認められない」と再提示を要求し、RFSが「設計認可審査の完了時点で達成可能な時期を示し」（市）に検証いただいてから目標時

増加した」と説明した。報告を受けた松谷部長は取材に「工事計画とはいいえ、事業開始が2年延期となったことは、市の新税や財政計画に多大な影響を与えることを事業者は認識してもらいたい」と述べた。事業開始時期を巡り、市側は規制委の「設計・工事方法の変更の認可（設計認可）」審査完了時点で、達成可能な時期を提示するよう求めていた。一方、RFSは設計認可後の「保安規定の変更認可」の見通しが立った時点で事業開始時期を見極める一と新たな方針を示した。今回の計画変更は確定的な事業開始の提示ではないため、市側は事務方がRFSに対応し、宮下宗一郎市長との面会はなかった。（鳥谷部知子）

2021/7/22 東奥日報

中間貯蔵開始2年延期

RFS 23年度に、設計認で時間

むつ市のリサイクル燃料中間貯蔵（RFS）は21日、使用済み核燃料中間貯蔵施設の新規制基準適合性審査に合格した。しかし、事業開始には設計認可や追加の工事、使用前検査など二連の手続きが必要で、坂本隆社長は「現時では今年4月、宮下宗一郎市長と面会した際に「今後の手続きを勘案し、具体的な工程の見通しが得られた時点で工事計画の見直しを検討しなければならぬ」と考えている」と説明していた。RFSの広報担当者は20日、本紙取材に「事業開始の見込みは暫定的に21年度と見ているが、現状、時期を極端に遅らせていない。見極められる段階になり、決まったら報告させていただきます」と述べるとも述べた。RFSは18年12月、事業開始時期の7回目の延期を決定し、「21年度と見込まれる」とした。しかし、宮下市長が「見込み」の工程は認められない」と再提示を要求し、RFSが「設計認可審査の完了時点で達成可能な時期を示し」（市）に検証いただいてから目標時

2021/7/22 東奥日報

中間貯蔵操業 23年度に延期

RFS報告 安全審査の長期化で

むつ市で使用済み核燃料の中間貯蔵施設を建設中のリサイクル燃料貯蔵（RFS）は21日、工事計画で2021年度と届け出ていた操業開始時期を23年度に延期したと県とむつ市に報告した。安全審査の長期化で新規基準への適合決定が想定より遅れ、追加の安全対策工事が必要となったため。延期は8回目。安全審査は津波の安全対策方針をめぐって長引き、想定より1年半遅れた20年11月に新基準適合が原子力

2021/7/23 朝日新聞

中間貯蔵10年間稼働なら207億円

山本留義委員（新風むつ）の質問に対し、吉田和久財務部長が説明した。市は宮下順一郎前市長時代の01年から新税創設を検討しており、今回の試算は昨年3月に可決・成立した「市使用済み核燃料中間貯蔵施設に関する調査検討特別委」を初めて開いた。市は当初計画の2010年度に稼働を始めたとの仮定で、20年度まで10年間の固定資産税と使用済み核燃料（新税）を試算したところ、税収は計約207億円と明らかになった。

2021/7/16 東奥日報